

番号	重点目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	数値目標	自己評価	評価の説明と今後の対策	学校運営協議会	
						意見等	評価
1	自主的な学びの推進	●学び合う学習、振り返る学習をとおした「わかる・できる」授業の展開	学習に関するアンケート調査における質問項目（①本時の目標②アウトライン③学び合い④振り返り⑤わかる・できる）の全ての項目で、肯定的な回答を9割以上にする。	3	○ アンケートの結果、①本時の目標②アウトラインでは、9割以上、③学び合い④振り返り⑤わかる・できるは8割以上肯定的な結果であった。これを受けて、学び合い、振り返り活動を今後も継続し、生徒の主体的な学びを伸ばしたい。また、継続して実施している「ちょこっと参観授業」等を充実させ、指導者一人一人の授業力向上を目指す。 ○ 家庭学習について、7割の生徒はしっかり取り組んでいると考えているが、3割はできていないと考えている。また、家庭学習の仕方がわからないと感じている生徒が多い。「学びの手引き」を改定し、家庭での学習の仕方について指導していく。 ○ キャリア教育については、よのなか教室での地域の方の面接指導や講話を通して、将来の夢や目標について考えることができた。次年度はSDGsを通して地域や世界の課題解決に目を向けさせる活動を行いたい。 ○ 生徒会活動、委員会活動への積極的な取り組みについて、職員、保護者、生徒の8割以上から肯定的な回答を得ている。担当職員を中心にきめ細かな手立てを行い、それを素直に受け入れ行動する生徒による成果と考えられる。	○ 子どもから授業が楽しいとよく聞いています。特に教・理・社。数学は、教え合う機会が常にあり、質問もしやすい環境である。共通することは子どもの学ぼうとする気持ちに先生方が応えてくれている。課題を与えるだけでなく、振り返りの徹底もよい。社会では振り返りの気付きに対してコメントを書いてくれて、とても意欲がでる。理科のテスト対策プリントも受験生の親として有り難い。 ○ 参観日の現在の形態は、保護者、生徒にとってもよい。より自然な学校生活や学習に向かう姿もよくわかる。課題も明確にされていたので、家庭学習の仕方がわからない生徒へは、授業での教え合い、勉強の仕方、ノートの使い方等、具体的なフォローも必要だと思う。今後の指導に期待します。 ○ 親と子の考え方や捉え方の違いが顕著に出てきている。親子としての時間の共有について設問項目があればよい。また、生徒のやる気を引き出すのは学校だけでなく家庭の協力も大きいと思う。 ○ 家庭学習は、内容だけでなく「自分で工夫すること」を学ぶ大切な学習だと思う。	3
		●学習の意義の理解、家庭への啓発と連携をとおした家庭学習の充実	学びの手引きを作成するとともに、適宜学習の意義をふれるよう指導し、家庭学習の充実度について、肯定的な回答を8割以上にする。	2			
		●地域や世界の課題把握と探究的な学習をとおしたキャリア教育の充実	地域や世界の課題に目を向けさせるとともに、自分自身に何ができるかを考えさせ、将来の夢や目標を思い描く生徒を9割以上にする。	3			
		●生徒自らが課題解決を図る主体的な生徒会活動の推進	課題に気付かせ解決に向けさせる取組を継続し、生徒会活動を充実させ、積極的な取組についての肯定的な回答を9割以上にする。	3			
2	協同的な人間関係の構築	●いじめ・不登校生徒をなくす魅力ある学校づくり（居場所づくり、絆づくり）の推進	居場所づくり、絆づくりを継続し、いじめや差別を許さない立場で行動できる生徒を100%にする。	3	○ 道徳的な力を身に付けようとする態度が9割をこえ意識が高い。学級担任と副担任が協力しながら学校全体で道徳の授業に取り組み、効果があった。次年度も、教職員全体で協力し合い、生徒の道徳的な実践力が身に付くよう努力をしていきたい。また、良好な結果がでている要因として、職員全員の道徳の授業や、組織的に取り組んでいる人権教育の成果が大きいと考えられる。今後も、相手の気持ちを考え大切にする生徒の育成のため、今の取り組みを検証し、新たな手立てを考え実践してより道徳的な心を育成し、物事を多面的・多角的に考えていく道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てたい。 ○ いじめや差別をなくす取り組みについて、保護者、職員、生徒の95%が肯定的な回答をしている。また、生徒の「みんなで何かをするのが楽しい」という項目についても、全体で90%以上が肯定的な回答であった。今後も100%を目指し、いじめを許さない、そして、絆のある学校づくりのための手立てを考え、実践していく。	4	
		●個々の変容を促す組織的な道徳教育の実践	学年担当職員による道徳の授業を展開するとともに、一人一人の変容をとらえ評価し、本人保護者へ伝えるようにする。	3			
		●互いのよさを認め合い、尊重し合う人権教育や特別支援教育の充実	相手の気持ちや考えを大切にする行動ができる生徒の割合を100%にする。	3			
3	健康的な心身の育成	●命を大切にするための安全教育や防災教育の充実	学校以外の場所で地震や津波が起こった場合に家族で話し合った避難場所が言える生徒を100%にする。	3	○ 避難場所についての確認は、保護者と生徒で10%ほどの認識の差があったが、その後、確認し、100%となった。また、みやざきシエイクアウトへの参加や、学期ごとの避難訓練により防災意識は高まっている。 ○ 食育の授業を学年に応じた内容で実施できた。また、栄養教諭の特別授業は、生徒の食に対する意識を高めた。毎日の給食の残滓もなく良好である。 ○ 時間を守ることにに対しては生徒、職員共に8割をこえて肯定的な結果がでているが、保護者は70%台と少し課題が残る。様々な場面において時間を守ることの大切さを指導していく必要がある。 ○ 無言清掃については、まだ、徹底していない。今後の取り組みとして、自ら気付ききれいにする清掃に意識を高めていく。	4	
		●健康を大切にし、体力向上を図る保健指導・食育指導の充実	適度な運動、バランスのとれた食事が実践できる生徒の割合を9割以上にする。	3			
		●規則正しい生活の確立と環境教育の充実	時間を守ることを意識し行動できる生徒の割合を9割以上にする。 無言清掃ができる生徒の割合を100%にする。	3			
4	家庭・地域との連携	●日向中校区ランドデザインの設定と展開による地域とともにある学校づくりの推進	ランドデザインの充実を目指すため、アンケートの「生徒は校内外のボランティア活動や地域の行事に興味を持ち、積極的に貢献しようとしている」の項目を90%以上になるようにする。	2	○ 「生徒は校内外のボランティア活動や地域の行事に興味を持ち、積極的に貢献しようとしている」の項目について、生徒の約8割、保護者は約7割しか肯定的な意見がなかったが、本年度はコロナ禍の影響で、地区の行事をはじめ、活動自体が自粛となりその結果目標値に届かなかったと考えられる。生徒は、地域に対する貢献の意欲はあるので今後、主体的活動を促していく。 ○ 情報発信については、生徒が87%、保護者は94%、職員は100%肯定的という結果となった。学校からの情報も定期的に更新し、配信ができていたので、高評価になっている。今後も継続していきたい。 ○ SCやSSW、児童相談所、市子ども課等関係機関との連携会議を定期的実施し、生徒の教育活動の充実を図るということには、生徒86%、保護者69%が肯定的な意見であった。特に保護者に対しての啓発が足りなかった。相談や、いじめ不登校の課題について、一層充実した対応をし、理解を深めていきたい。 ○ 本年度は、合同研修等を自粛し、小中連携についての進展に影響が出た。コロナ禍が落ち着いて、もう一度課題を精選して充実させて行く必要がある。	4	
		●開かれた学校づくりのための家庭や地域への情報発信の充実	学校だよりや保健だよりを月1回、学級通信を週1回以上発行し、ホームページは週1回以上を目指して更新する。	4			
		●地域や関係機関との連携による教育活動の充実	SCやSSW、児童相談所、市子ども課等関係機関との連携会議を定期的実施し、生徒の教育活動の充実を図る。また、小学校との連携により、アンケートの「小中一貫教育によって、目指す生徒像に近づいている」の項目を90%以上にする。	3			